



目的

荒廃農地を活用して野菜づくりで地域を元気にする

1. 荒廃地の活性化は地域の活用の手本
2. 野菜作りは家族連れや障害者との共生になる
3. 高齢者の生き甲斐の場
4. 西洋野菜の開発、南駿農協と連携
5. 次世代の農業従事者育成

現状

共生社会を実感するには野菜づくり

共生社会を実感するには野菜づくりが適しています、これまでの実績から視覚障害の県立高校市立高尾園、松風荘、NPO ティンクルなど多数受け入れてきました放課後倶楽部の子供たちも参加しました。地域交流は青空のもとで行うと効果がすぐ現れます、地区センターの補完の一助にもなります。人口減小に伴いお祭りも減ってきていますがお祭り同様の役目も果たします。

但し障害者との共生は普段からの交流と周囲の理解と参加者の理解が前提になります。事前の打ち合わせは勿論のことスタッフ施設の担当者とのコミュニケに十分の時間をかけることが必要です

活動

荒廃農地の開拓と土の随時投入

①野菜栽培体験②収穫体験③料理体験④婚活イベント

本年度は地区センターがコロナの関係で利用不可となり、料理教室が開催できなかつたことが残念でした。その分、収穫の体験や野菜作り教室を充実できたことが良かったです。又、新たにメロンやなばなの今まで経験のなかつた野菜類の栽培を体験できたことはよかったです。地域にも名前が浸透し始めていることが、集客人数が増えていることでわかります。



振返り 課題

体制を充実させ、沼津西部の交流拠点を目指す

- 現在スタッフは15名となり、強化できましたが、さらに増員して、体制を充実していきたいと思えます。
- 野菜作り40名、受け入れ可能なので継続して活動します。
- 沼川の恩恵を受けていますので桜並木だけでなく沼川の活性化も進めていきます。
- 果樹園の開設も検討していますので沼津西部の交流拠点を目指します。
- 東西南北のロケーションは沼津で一番ですから笑顔のあふれる地域を目指します。
- 近くには5つ橋があり活用されていませんから観光資源としてアピールしていきます。
- 2/25に市長を表敬訪問させていただき、植物園の設置・ホテルの里の指定・文化講演会支援の提案をさせていただきましたので推進いたします。

これからの活動予定:鹿など害獣対策 / 土壌の搬入、土壌改良 / 活性化と改良の機械の導入 / 駐車場不足解消 / 資材置場や農業消耗品の置場小屋の設置 / トイレの設置 / ポンプ改良 / イベント用テント4基(雨や夏対策等避難場所)